

発表者氏名： 清野 真輝

所属学校： 小学校

派遣職種： 小学校教諭

派遣国： ドミニカ共和国

派遣先： 教育省 08-05 地方教育事務所

タイトル： 「算数指導のシステム化」で、
子どもに豊かな教育を！

キーワード： 教員の算数指導力向上、「算数指導のシステム化」

発表要旨：

ドミニカ共和国サンティアゴ市で行われている「算数プロジェクト」に参加しました。要請内容は、現地教員の「算数指導力の向上」でした。赴任した小学校には、教科書や問題集、また年間指導計画はなく、各担任は自身の算数の知識だけを頼りに、毎日の算数の指導内容を決めざるを得ませんでした。そのため、同じ学年間においても指導内容や指導方法がばらばらで、結果として子どもの学力に「大きな差」が顕著に見られました。そこで私は要請内容よりも先に、まずはどの子どもにも「等質で最低限の教育」を与える必要があると判断し、赴任直後からすぐに「算数指導のシステム化」に取り組みました。「算数指導のシステム化」は、年間指導計画の作成、毎時間の学習プリントの作成、学習プリントの教師用指導参考ガイドの作成、指導内容、指導方法を共有するための学年会の実施、同一学年内での学習進度の統一、教材教具の作成、現状把握のための授業モニタリング、で構成されています。このシステム化を定着・継続させたことで、1年8ヶ月間を通じて、13学級中11学級において段階的に子どもの正答率を上げることができました。私は、「子どもの正答率を上げることができた教員は、自身の算数指導力を向上させた教員」であると判断し、要請内容を満たすものと考えました。

その外には、家庭の教育参加をうながすために、保護者へ意識アンケートを実施したり、家庭へのお便り「算数通信」を発行したりもしました。一方で、校内研修システムの構築も目指しましたが、「算数指導のシステム化」に多くの時間を割いたこと、また研修の大切さを自覚させることにじつくりと時間をかけたことから、不完全に任期終了を向かえ、成果を上げることができませんでした。

現在は、新潟大学教育学部附属新潟小学校にて、H23年度より施行される新学習指導要領で新設された「外国語活動」の研究をさせていただいております。「外国語活動」では、多様な文化についても内容として採り上げられているので、約2年間の経験を生かして授業を作っております。



「算数指導のシステム化」を行い、自作の学習プリントの効果についてモニタリングをしています。子どもは、一たび問題の解き方を理解すると、「次も見て！」と意欲を高め、なかなか次の子へと向かわせてくれません。